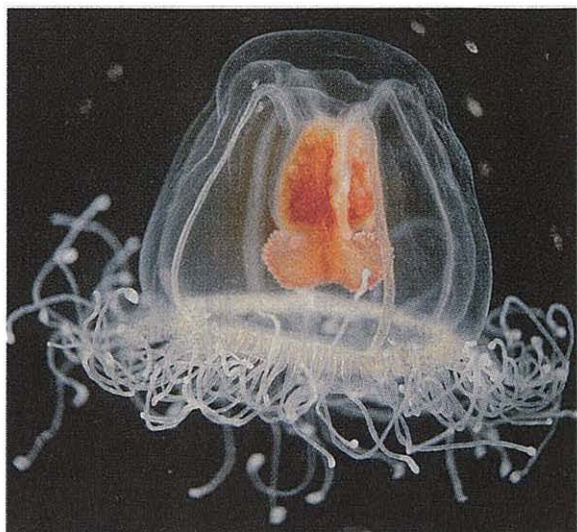


2013年(平成25年)5月15日 水曜日 (12)

ベニクラゲモドキ



△
ベニクラゲにそっくりなベニクラゲモドキ

久保田 信

番外編7



不老不死のベニクラゲとそっくりなので、ベニクラゲモドキという和名が付けられた。

体の真ん中に垂れ下がる口

柄(こうへい)全体が紅色で、大きさも触手の形態なども両者はそっくりである。傘高は7ミ以下で、傘縁触手は多数ある。触手は100本ほどが2環列に並ぶ。触手の基部の膨らみの内側に眼点(がんてん)が1個ある。生殖巣は円筒状の口柄で形成される。これらのすべての特徴もベニクラゲに似ている。

しかし、ベニクラゲと違う点は、口先まで紅色になっている点である。また、口柄の根元には一切スポンジ状の組織

がない。この2点を確認すれば2種の区別は容易である。ベニクラゲモドキは日本ではなぜかまれな種で、これまで神奈川県三崎と静岡県西浦大瀬崎で記録されているのみである。世界ではインド洋、太平洋、大西洋、地中海に分布する。これまで田辺湾では確認されていないが、将来的には出現する期待が持てる。ところで、紅色のベニクラゲは北日本にしか分布しないので、南日本からこのようなクラゲが発見されたら間違いなく本種であろう。

ベニクラゲモドキは、ベニクラゲのように若返りしない代わりに再生力が強い。野外でのポリプは日本では未記録だが、外国産では知られている。群体性のものが飼育によって分かっている。

ただ、生態については不明な点が多く、ベニクラゲのようにヒドロ花に最多で13本の糸状触手を持つが、クラゲ芽の形成方法は違う可能性がある。

(京都大学准教授)